

「縄文時代の富里」

於：富里市立図書館

2012・8・19

林田利之

1. 縄文時代の始まり

氷河時代の終わり頃になると気候は温暖化し、日本列島には、現在と同じような温帯の動物や森が現れました。縄文時代の始まりです。

この新しい環境の中で、人は土器を使い始めます。それまでの、焼く・蒸すあるいは生のままの食事に「煮る」という調理方法が加わりました。肉や魚は煮汁とともに、一層おいしく食べられるようになりました。そして何よりも、アクの強い山菜やトチ・ドングリ・クリなどといった、栄養豊富な木の実の食用が可能になりました。また食料の少なくなる冬場に備え、木の实類の貯蔵も始まりました。さらに弓矢や釣り針・漁網などの使用は、人々の生活を豊かにし、約9,000年前には堅穴住居での定住生活が始まったと言われていいます。

旧石器時代には存在しなかった土器が製作・使用されることが最も大きな画期となり、人々の生活は豊かなものへと変化したわけですが、今日、私たちその豊かな生活ぶり様々な遺物や遺構から窺い知ることができます。

富里市で発見された縄文時代の遺跡のお話をする前に千葉県内の遺跡などを概観しながら、『縄文』という時代がどのようなものであったのかを見てゆきたいと思います。



第1図 千葉県内の主な縄文時代遺跡位置

2. 最古の土器を求めて

縄文時代の主役とも言えるべき「縄文式土器」で最古の土器はどのような姿、形をしているのでしょうか？この答えを求めて多くの研究者が日本各地で発掘を行った結果、第2図に掲げた隆起線土器が最古級の土器であることがわかってきました。

この土器は「縄文」の由来である縄目模様がついてはならず、細い粘土の紐を波状に貼り付けた簡素な模様が特徴となっています。

隆起線土器が作られた時期を草創期と呼びますが、その後続く土器の文様の变化などから第3図に示したとおり、全部で6時期に区分されており、それぞれ模様や、形に特徴を持った土器が数多く製作されたことがわかってきています。

では、このように土器が発明され、使用された縄文時代とはどんな時代だったのでしょか。

	型式	縄文土器の変遷
草創期	(種線文系) (爪形文系) (多縄文系)	
早期	上野【大内、大内、大内】 鹿嶋【鹿嶋、鹿嶋、鹿嶋】 鎌倉【鎌倉、鎌倉、鎌倉】 （注）八木、八木、八木 （注）八木、八木、八木 （注）八木、八木、八木	
前期	(上ノ山)下吉井 (木島)花輪下層 二ツ木 鹿山 鹿山 鹿山 鹿山 緒磯古・浮島Ⅰa 緒磯古・浮島Ⅱ 緒磯古・浮島Ⅲ 緒磯古・浮島Ⅳ 十三番堤・興津Ⅰ	
中期	五領ケ台Ⅰ・八 辺 五領ケ台Ⅱ・阿玉台Ⅰa （狭 沢）阿玉台Ⅰb 藤坂Ⅰ・阿玉台Ⅱ 藤坂Ⅱ・阿玉台Ⅲ 藤坂Ⅲ・中沖阿玉台Ⅳ 加藤利Ⅰ 加藤利Ⅱ 加藤利Ⅲ 加藤利Ⅳ	
後期	称名寺Ⅰ 称名寺Ⅱ 堀之内Ⅰ 堀之内Ⅱ 加藤利B1 加藤利B2 加藤利B3 高井原・曾谷 安行Ⅰ 安行Ⅱ	
晩期	安行3a 安行3b・埴山 安行3c・前浦Ⅰ 安行3d・前浦Ⅱ 千 葉 千 葉	

第2図 縄文土器の移り変わり



第2図 日本最古級の隆起線土器